

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Prospective association between maternal bonding disorders and child toothbrushing frequency: A cross-sectional study of the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

母親の対児愛着と子どもの歯磨き習慣の関連について

ユニットセンター(UC)等名: 宮城ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: International journal of Paediatric Dentistry

年: 2021 DOI: 10.1111/ipd.12791

筆頭著者名: 土谷 忍

所属 UC 名: 宮城ユニットセンター

目的:

毎日の歯磨き習慣は子どもの虫歯の発生予防に効果があるが、幼児期の歯磨き習慣は保護者に依存している。また、保護者の対児愛着(子どもへの愛着)と子育ての方法は関連があると報告されている。本研究では母親の対児愛着と子どもの2歳時点の歯磨き習慣との関連について検討する。

方法:

83,954組の母親と生まれた子どもを対象とし、母親の対児愛着の評価には赤ちゃんへの気持ち質問票(MIBS-J)を使用し、30点中5点以上を愛着障害と評価した。共変量として、母親の年齢、出産経験、喫煙・飲酒習慣、パートナーの協力、世帯年収、子どもの性別、母親の産後うつを用い、多重ロジスティック回帰分析により検討を行った。

結果:

子どもの歯磨き回数が1日1回または1回未満の場合には母親の愛着障害と関連が認められた。また、赤ちゃんへの気持ち質問票(MIBS-J)に対する母親の回答で点数が低い、つまり母親の対児愛着が形成されているほど、子どもの歯磨き回数が多くなる傾向が認められた。

考察(研究の限界を含める):

2歳時点の子どもの歯磨き習慣と母親の愛着障害に相関が認められ、母親の愛着障害のスクリーニングをすることで、子どもの歯磨き習慣を把握できる可能性が示唆された。本研究の限界として、母親の対児愛着の評価が1歳時点のみであるため、経時的な評価が必要であることと、子どもの虫歯の発生及び母親の口腔衛生に関する情報、母親の産後うつや対児愛着障害へのサポートに関する情報等が含まれていないことが挙げられる。

結論:

母親の対児愛着をスクリーニングし愛着形成を支援することによって、子どもの歯磨き習慣を定着させ、子どもの虫歯の発生を予防できる可能性が示唆された。